

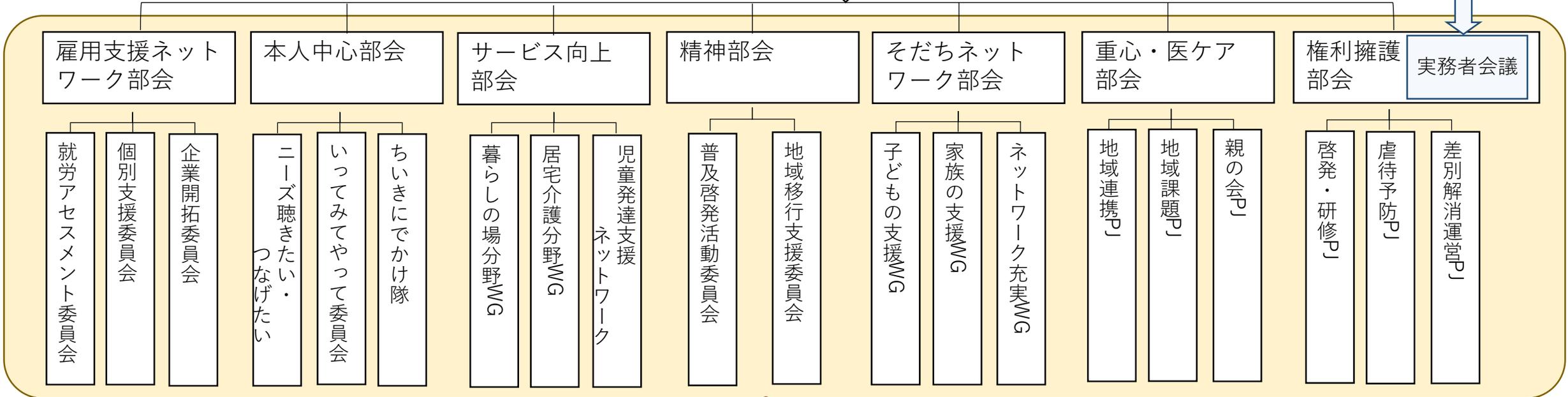
令和4年度北信地域障がい福祉自立支援協議会組織図（案）

- 市町村課題検討ワーキンググループ
(6市町村係長・担当者を中心に構成、毎月実施)
 - ケアプラン研究会
(6市町村係長・担当者を中心に構成、「サービス等利用計画」「モニタリング」の質の検証等)
 - 地域生活支援拠点等事業検討会
(6市町村係長・担当者を中心に構成、毎月実施)
-
- 地域資源開発プロジェクト
(各部会、相談等からあげられた提案に基づき、幹事会で検討の必要性を判断し設置する)

自立支援協議会
(年3回、協議会委員で構成)

北信圏域障害者差別解消
支援地域協議会 (代表者会議)

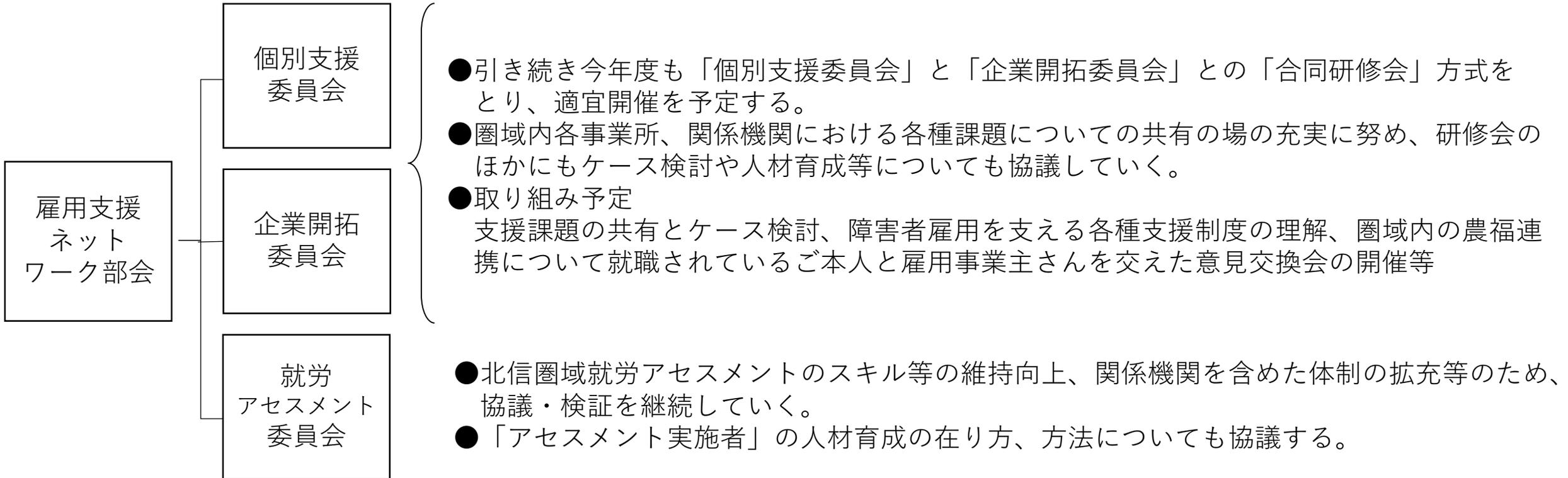
幹事会
(四半期ごとに年5回程度)



ご本人のニーズ

1、雇用支援ネットワーク部会

【目的】 障がい者の企業への就職と職場定着をより一層進めていくための、関係機関による連携協力体制の構築を目指し、働きやすい地域の体制創りの推進を目的とする。コロナ禍の社会・労働情勢に沿った就労支援の在り方について、地域としての協議を進める。



2、本人中心部会

【目的】 障がいのある方がこの地域で安心して自発的に生活できるよう、ニーズに沿ったより良いサービスが提供できる地域をつくるために活動する。当事者が積極的に活動できる場を広げ、当事者主体の活動を後方支援していく。

本人中心部会

- 今後開催する部会の中で、テーマを設けて部会員同士が意見交換できる機会を持っていく。
- リモートで面談を行う機会も増えてきているため、リモートによる面談技術について学習会が行えるよう検討したい。

ニーズ聴きたい・つなげたい

- ニーズに沿った支援ができるよう、ニーズや想いを聴き、つなげていく活動を継続していく。またそれにより、聴くことのできる支援者を地域に増やすことも狙いとしている。
- 昨年度は「コロナや災害に関する情報をどのように得ているか」について地域の事業所を通じてアンケート調査を実施。そのまとめを市町村課題検討WGに報告し、やり取りを行っている。市町村課題検討WGから頂いた情報等を昨年度アンケートに協力して頂いた事業所等にお返ししていきたい。

いってみてやって委員会

- 地域のさまざまな資源を気軽に見ていただく事で生活の中の選択肢を広げていただけるよう、当事者向けの見学・体験会を実施する。
- コロナ下であるため、昨年度と同様、WEBを活用した見学会を行いたいと考えている。内容については今後検討し、決めていく。

ちいきにでかけ隊

- 余暇に関する情報提供について検討していく。また、現在コロナの影響で活動休止中の当事者実行委員会「みんなで楽しもう会」の活動が再開できる時には、活動を後方支援していく。
- 昨年度は障がいのある方にもわかりやすく情報が届く様、情報提供の方法等について検討。障がいのある方向けの講座の実施されている中野市社会福祉協議会に、講座のチラシにルビを振ってもらえないか等相談に伺った。今後も取り組みを継続していく。

3、サービス向上部会

【目的】 地域の支援力の底上げをめざし、障がい理解や適切な支援ができる人を地域に増やしていく事を狙いとする。また、横のつながりを大切に、情報共有の中から地域の課題の把握・提案を行っていく。

サービス向上部会

- 今年度はテーマを「つながる、広める」とし、支援者同士のつながり、事業所同士のつながり、地域資源とのつながり、他部会とのつながり等、様々なつながりを持ち、そのつながりやそこから生まれた成果等を広めながら、支援力の向上や課題の解決につなげていく。
- 現場支援者向けの研修会を企画、実施していく。今年度もウェブを活用しながら2回実施したい。

暮らしの場グループ

- 入居者から「働きたい」等の声が上がった時の資源活用について情報共有していく。
- グループホームで生活されている方の生活場面の介入をどこまですべきかを情報共有していく。

ヘルパーグループ

- 発達障がいや精神障がいの方の利用が増えてきている。障がい特性の理解を深めたり、対応方法について情報共有していきたい。
- 高齢化による移行もみすえ、高齢分野のヘルパー事業所とも情報共有できる機会をもちたい。

児童発達支援ネットワーク

- 放課後等デイサービスの利用状況等について情報共有。事業所の定員に空きはないが、事業所が増えれば良いというわけではない。サービスの利用目的の明確化、力をつけてサービスから卒業していく事等が圏域全体で意識して取り組んでいけるよう、実態把握や関係機関との情報共有を行っていきたい。

4、精神部会

【目的】精神障がいの方が、住み慣れた地域を拠点とし、ご本人の意向に即して充実した生活を送ることができるよう、医療・保健・福祉等で連携して支援が行える体制を構築していく。更に啓発活動等を行い、安心して暮らし続けていける地域づくりを目指す。

精神部会

●精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議
退院支援、地域への啓発、地域資源の充実等、必要な課題検討を行い、地域づくりを行っていく。そのために、2つの委員会を設けて課題検討を行う他、部会全体で以下の様な取り組みを実施していく。

- ①「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」について、居住支援、ピアサポーター等テーマを決めて、実務レベルの取り組みについて学習会を実施する。
- ②住まいの場の確保に関する困り感やエピソードについて、事例を共有し、課題を整理する。
- ③当事者同士のおしゃべりの場「仲間としゃべろう会虹」について、コロナの影響で2年間開催できずにいたが、今年度は感染症対策を講じた上で、2回実施する。

地域移行支援委員会

●昨年度、地域から病院に入院する時に必要な情報を共有できるよう「入院時情報提供書」を作成し、使いやすい内容に見直しを行った。今年度は、使用していただいた相談支援専門員や市町村担当者の声や、受け取る側の病院の声を聞き、必要に応じて改訂していきたい。

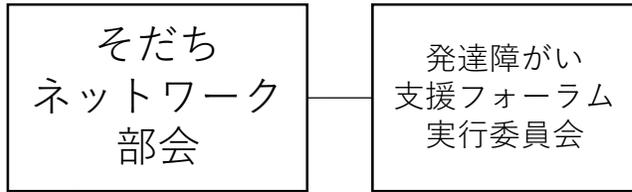
普及啓発委員会

- 昨年度、地域に向けた啓発を行うため、統合失調症をテーマに広報紙を作成。①当事者個人の紹介、②地域の相談窓口等資源の紹介、③病気についての紹介の3項目で構成。今年度はそれを配布し、その効果等検証しながら、今後の啓発活動の内容も考えていきたい。
- ピアサポーターに関する当事者・支援者の認知度や必要性を把握するため、実態調査を行いたい。

5、そだちネットワーク部会

【目的】 様々な障がいや困り感をもっている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと
～3つの基本的柱～

①子どもの困り感や特性に合わせた支援 ②家族の気持ちに寄り添う支援（障がい受容の伴走者であること） ③関係機関のネットワーク機能の充実



●開催に向けての準備を進めていく。



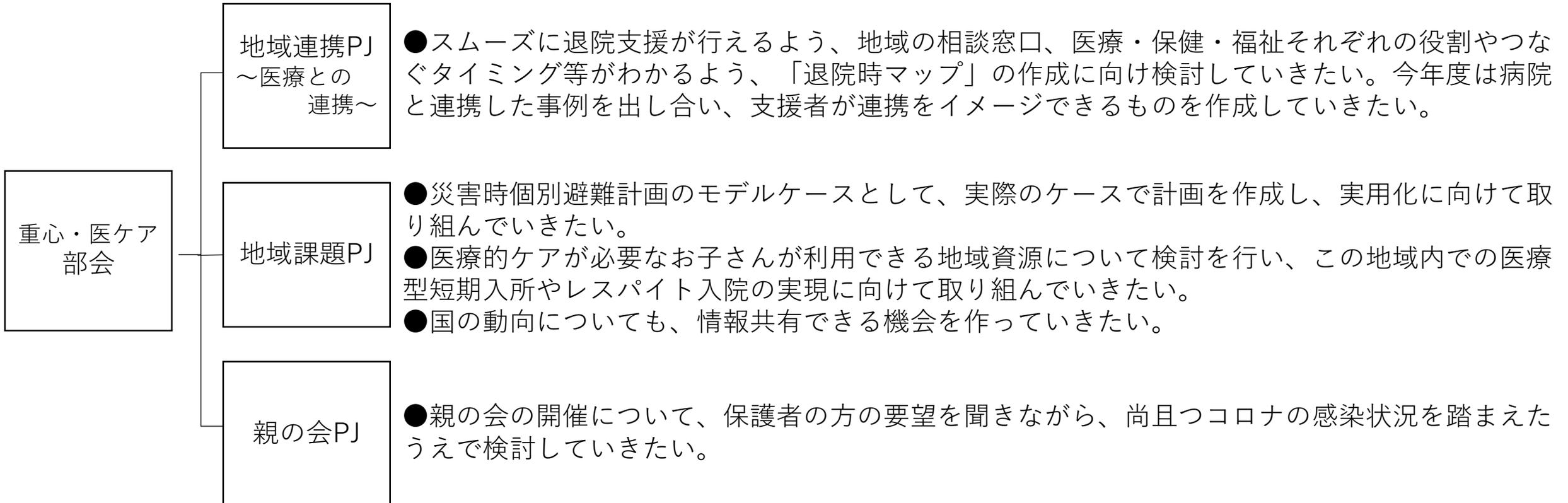
●6市町村共通の課題を検討していくために、地域の現状を共有しながらニーズの抽出を続けていく。

●「子どもに関連した補助の制度が、必要としている家庭に届くための工夫」をテーマに、制度の内容や対象者を容易に把握できるようなツールを作成し、必要なタイミングでその時の軸となる支援者が家庭へと情報提供ができる体制を整えていく

●保育所等訪問支援・園訪問・児童クラブ・教育相談などについて、移行の仕組みや資源間の連携など、他部会等とも連携し課題の検討を進めていく。

6、重心・医ケア部会

【目的】北信圏域に住む医療的ケアが必要な障がい児等とその家族が抱える実態や支援体制の現状と課題を把握し、支援を行う関係機関が連携してその課題解決に取り組むことにより、医療的ケアが必要な障がい児等が地域で安心して暮らしていくことができる体制を構築する。



7、権利擁護部会

【目的】 障がい者、高齢者等の権利をどう支えていくかについて、幅広い観点から、関係機関の連携協力体制を強化していく中で、誰もが住みやすい街づくりを目指していく。

権利擁護部会

- 部会員自身の学び・理解を深めるため、「権利擁護」に関する部会内研修会を実施する。（第3回部会）
- 長野県権利擁護部会の内容について共有し、他圏域の取組みも参考にしていく

啓発・研修PJ

- 第3回部会に予定している部会内研修の準備・実施を担当する。
- 「権利擁護」をわかりやすく伝えていくための活動を行っていく。今年はYouTubeやローカルTVも活用した啓発活動も検討していきたい。

虐待予防PJ

- 虐待予防にむけた検討・活動を行っていく。まずは障害福祉サービス提供事業所における虐待防止委員会設置義務化にあたり、設置状況の確認や、事業所に向けた研修会を実施したい。

差別解消運営PJ

- 北信圏域障害者差別解消支援地域協議会とその実務者会議の内容等について、地域の実情を見ながら検討していく。
- 昨年度作成した障害者差別解消法を啓発するためのパンフレットについて、利用状況の共有をしていく。
- 「こんな配慮が欲しかった」等の当事者の声を聞く取組みを、本人中心部会と連携して行いたい。

8、幹事会

【目的】北信圏域の障がい者福祉の現状と課題を踏まえながら、地域に必要とされる取り組みや施策の実現に向けて、さまざまな検討協議を行う。また、協議会が円滑かつ効果的に機能するための検討協議を行う事を目的とする。

幹事会

- 相談支援専門員の活動報告や、各部会、委員会等からの提案・報告を受け、地域の課題について検討を行う。
- 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画が今年度は計画の中間年となる。前年度どこまで進捗したのか検証し、今後力を入れるべき課題は何か等検討し、各部会とも連携しながら地域の体制整備を進めていく。

市町村課題 検討WG

- ケアプラン研究会にて、サービスの支給決定を行う行政の立場から見た適切なプランの学習や、支給決定を行うにあたり悩むポイント等を共有し、質の向上を目指す。
- 圏域内の相談支援専門員との情報共有・意見交換会を2回予定。ざくばらんに意見交換等を行う事で、連携がよりスムーズになったり、地域課題の把握・解消につながるようにしていきたい。
- 昨年度から主任相談支援専門員に参加して頂くようになったため、主任相談支援専門員を通じて改めて地域課題を把握し、検討を行っていく。
- 今年度は各部会とのキャッチボールを増やし、地域課題の検討を行っていききたい。またその中で、長野県自立支援協議会にあげる課題の精査も行っていきたい。

地域生活支援 拠点等事業 検討会

- 地域あんしんコーディネーターの活動や空床の利用実績等の報告を受け、地域課題の解決に向けた検討を継続していく。
- 昨年度から開始した「一人暮らし体験事業」について、体験者から希望があった体験場所での居宅介護支援導入について、精査検討していきたい。
- 研修会を通じて事業所間で協力できる仕組みや、お互いのスキルアップを図る取り組みを行っていききたい。
- 拠点等の機能を担う事業所を増やす取り組みを行いながら、連携できる地域作りを推進していく。